

1 目指す学校像

帝塚山学院が設立にあたり提唱した「力の教育」を実現し、意志の力、情の力、知の力、躯幹の力といった、広い意味の力の漲った強い人物を育成する。

1. 活力ある人間の育成
2. 創造性豊かな人間の育成
3. 協調性ある人間の育成
4. 国際感覚豊かな人間の育成 を目標とする。

2 中期的目標

1 教育力の強化

(1) 進路指導

- ① 生徒一人ひとりの進路実現
- ② 現役国公立大学合格者数の増加

(2) 学習指導

- ① 2020 年大学入試制度改革に向けて、英語検定試験対策の実施
- ② AL 型授業の導入
- ③ ICT 機器の導入

(3) 生徒指導

- ① 基本的な生活習慣の確立、安心安全な学校生活の充実を図る。
- ② 清掃の徹底、挨拶の励行、遅刻の防止
- ③ いじめの防止、携帯電話の使用方法について
- ④ 交通安全指導の強化
- ⑤ 生徒指導の強化

(4) 特別活動

- ① 自主性のある活動の促進、学校行事・課外クラブ活動の充実
- ② キャリア教育の充実と大学見学の実施

2 組織力の強化

3 財務基盤力の強化

(1) 入学生の確保

(2) キャンパスの整備

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

| 自己評価アンケートの結果と分析 | 学校協議会委員からの意見 |
|--|--|
| <p>【学校運営】</p> <p>「教育課程は学習指導要領に沿っている」 92%（昨年度より3%増）</p> <p>「入学者を確保するための十分な募集広報活動を、組織的に行っている。」91%（昨年度より5%減）</p> <p>「学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている」90%（昨年度より6%減）</p> <p>「年間を通じた教育計画（シラバス）を各教科別に立てて実践している」86%（昨年度より5%減）</p> <p>「保護者へ授業を公開している」89%（昨年度より21%増）などは昨年度に引き続き高い評価を得ている。特に昨年度から年2回の授業参観を行ったため、評価が高くなった。一方、「教科間・コース間で教育方針の情報交換の機会があり、相互理解が図れている」46%（昨年度より6%減）は評価が低く、今後は教科内での研修会を開催するなどの改善が必要と考える。</p> <p>【教育内容】</p> <p>「海外留学制度が有効に実施されている」 91%（昨年度より2%増）</p> <p>「図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる」82%（昨年度と増減なし）</p> <p>「他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている」82%（昨年度より5%増）</p> <p>「部活動は活発に行われている」81%（昨年度より5%減）</p> <p>「職業体験や卒業生による講演会を実施し、</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンスは大切である。会議体制等を含め、どのようにスピーディに決定し、隅々まで伝達するのが課題である。 ・ガバナンスに関して、職員会議などに関しては学校管理運営規則が教育委員会のホームページからダウンロードできるので、それを参考に。 ・研修体制について、新しい指導要領が示され、知識をどのように活かすか、学ぶ姿勢をどのように育てるかという方向へ変化している。研修が肝心で、研修を進めることが非常に大切であると考え。 ・学校を変えていくにあたって、教科指導を軸にすることは非常に大切であり、さらにALを軸に行うとよい。各教科の研究会があり、そこに主体的に参加できるよう環境を整備して欲しい。若い教員に必要なのはアウトプット。授業力を高めることが目指す学校像につながることを丁寧に伝えていくことが大切。 ・現状は教員が学校のルールを守れていない、守ろうとしていないのかと思われる。規範意識が身に付くよう指導していることに対する保護者から評価が60～70%というのが気になる。ここが基本中の基本。教員自身がルールを守れていないことが影響しているのではないか。 ・帝塚山学院泉ヶ丘は進学校のイメージがあるが、その中で保護者からの評価として、進路や情報提供の評価が低い。進学校としてここを上げていくようにして欲しい。 ・「教員はチームワークがとられており、どの教員に相談しても一貫した対応が期待でき |

キャリア教育の充実に努めている」81%（昨年度より 3%減）などは昨年度に引き続き高い評価を得ている。

一方、「生徒に清掃、校内美化意識の向上が図られている。また、施設・設備を大切にすることを育成している」28%（昨年度より 17%減）

「ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。」37%（昨年度より 17%減）からも分かるように、清掃、美化への指導に依然甘さが見られる。教員の清掃への意識を高めるとともに生徒への指導を行う必要性が極めて高い。

【生徒指導】

「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある」80%（昨年度より 13%減）

「補講など生徒の成績向上のための措置は充分になされている」78%（昨年度より 15%減）

「アンケートを実施し、いじめに対して防止に努めている」74%（昨年度と増減なし）

「ICTを利用して授業を行っている」65%（昨年度より 43%増）

肯定率が高くなっている設問でも昨年度と比較すると 10%以上減少しているが、希望教員へタブレットを貸与した結果 I、CT の利用は 43%増と大幅に上昇した。

一方、「生徒の学習意欲を引き起こす取り組みができていない」54%（昨年度より 11%減）「生徒の生活指導について、学校の一貫した方針に従い、組織的に対応している」59%（昨年度より 2%増）は低い評価であった。生徒指導が組織的に対応できていないことは大きな問題であり、今後は生徒指導部を中心に改善が必要である。

る」の肯定率が非常に低い。現場の些細なことが学校の評価に直結してしまう。そのような意識を変えてもらえば、この結果はすぐによくなると思われる。

3 本年度の取り組み内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取り組み | 評価指標 | 自己評価 | 課題と改善策 |
|---------------|--|---|---|---|---|
| <p>教育力の強化</p> | <p>1 進路指導 ・生徒一人ひとりの進路実現 (現役国公立大学合格者数の増加)</p> | <p>・進路指導システム確立のための手引きを作成する。</p> <p>・夏期セミナー、冬期セミナー、2次直前対策講座を充実させる。</p> | <p>「進路指導システム確立のため、進路の手引きを改訂した」(自己評価アンケート) 目標肯定率：80%</p> <p>①「補講など生徒の成績向上のための措置は充分になされている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：85%</p> <p>②「補習や講習は統合的に整備され、多様な進路希望に対応できる体制になっている」(保護者アンケート) 目標肯定率：70%</p> | <p>肯定率 29年度70% (28年度74%) 進路の手引きの作成をしたものの、有効活用できているとはいえない。</p> <p>①の肯定率78% (28年度92.6%) ②の肯定率63% (28年度79.7%) ともに昨年度とより約15%低下した。教員による評価と保護者による評価に15%の差が見られた。</p> | <p>進路指導部新体制による進路の手引きのさらなる改訂と進路講話を行う。</p> <p>保護者アンケートの肯定率を70%以上にすべく、該当学年の状況に応じて適切な講座設定を行う。</p> |
| | <p>2 学習指導 ・2020年大学入試制度改革に向けて、英語検定試験対策の実施</p> | <p>・8限目に英検対策講座を実施する。 英検取得目標を設定し、その結果を検定対策委員会で統括し、今後の指針を決定する。</p> | <p>「補講など生徒の成績向上のための措置は充分になされている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：80%</p> | <p>肯定率78% (28年度92.6%) 昨年度より約15%低下した。 検定対策委員会よりセブ島とのオンライン英会話を導入し、英検対策は4日間、スピーキング対</p> | <p>オンライン英会話に日数を増やすなど、各級の取得割合を上昇させるための対策を行う。</p> |

| | | | | |
|--|---|--|--|--|
| <p>・AL型授業の導入</p> | <p>・AL対策研修会へ教員を派遣し、研修内容を共有する。</p> <p>・AL型授業を6年コース中学の総合学習を中心に実施する。</p> | <p>「教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている」(自己評価アンケート)</p> <p>目標肯定率：55%</p> | <p>策は8回実施した。</p> <p>肯定率49% (28年度48.1%)</p> <p>教員の派遣数は昨年度比べて飛躍的に上昇したが、肯定率はほぼ同じである。</p> <p>共有方法についても課題として残ったままである。</p> | <p>研修内容を共有するための書式を導入し、いつでも全教員が閲覧できるようにする。</p> |
| <p>・ICT機器の導入</p> | <p>・プロジェクタ活用に向けて教科ごとの研究授業を実施する。</p> <p>教員へのタブレット導入に向けた委員会を立ち上げ、機種を選定を行う。</p> | <p>「ICT機器を利用して授業を行っている」(自己評価アンケート)</p> <p>目標肯定率：75%</p> | <p>肯定率65% (28年度22.2%)</p> <p>肯定率は飛躍的に上昇したのは、中学を中心にClassiを導入したからであると考えられる。</p> | <p>平成30年度はClassiを高2まで導入し、情報公開を含めたICT化を促進する。</p> |
| <p>3生徒指導</p> <p>・基本的な生活習慣の確立</p> <p>・清掃の徹底、挨拶の励行、遅刻の防止</p> | <p>・大掃除での項目を設定</p> <p>・生徒会と協力し、挨拶強化期間を月1回設ける。</p> <p>・定期テスト間に3回以上遅刻した生徒に対し、早朝登校指導を行う。</p> | <p>「学校は規則正しい生活習慣が身に付くように指導している」(保護者アンケート)</p> <p>目標肯定率：80%</p> | <p>肯定率75.8% (28年度78.3%)</p> <p>肯定率は上がっていない。清掃、挨拶、遅刻防止に関して、指導を徹底させる必要がある。</p> | <p>全校集会の抜本的改定をおこなう。生徒指導部を中心に改善を目指す。外部講師の依頼も検討。</p> |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| <p>・安心安全な学校生活の充実を図る</p> | <p>・教育相談ケーススタディ会議を実施。アドバイザーからの助言を基に、不登校生徒のケアを行う。</p> | <p>「学校は保護者の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している」(保護者アンケート) 目標肯定率：80%</p> <p>「カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある」(自己評価アンケート) 目標肯定率：85%</p> | <p>肯定率 77.6% (28年度 62.7%)</p> <p>肯定率 80% (28年度 92.6%)</p> <p>ケーススタディ会議は昨年度と同様に年7回実施し、事例を基に情報の共有を行った。</p> | <p>今後も引き続きケーススタディ会議を開催するが、支援体制の再構築や各学年で情報の共有方法を検討する必要がある。</p> |
| <p>・いじめの防止、携帯電話の使用方法について</p> | <p>・いじめ対策アンケートを実施する。 ・教員による啓蒙活動を行う。</p> | <p>「アンケートを実施し、いじめに対して防止に努めている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：80%</p> <p>「学校は生徒からの悩みや相談に親身になって対応している」(保護者アンケート) 目標肯定率：80%</p> | <p>肯定率 74% (28年度 74.1%)</p> <p>肯定率が上昇していない。啓蒙活動が不十分である。</p> <p>肯定率 66.9% (28年度 79.7%)</p> <p>肯定率が低下した。</p> | <p>全校集会を利用して、いじめに対する意識改革に努める。</p> <p>頻繁に面談を行い、生徒とコミュニケーションをとる時間を増やす。</p> |
| <p>4 特別活動 ・自主性のある活動の促進、学校行事・課外クラブ活動の充実</p> | <p>・学校行事への意欲的な取り組みや生徒会活動を活性化させる。</p> | <p>「生徒会・自治会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している」(自己評価アンケート) 目標肯定率：60%</p> | <p>肯定率 50% (28年度 67.3%)</p> | <p>取り組みは甘さが見られる。生徒会担当教員から生徒会長に目的を伝え、生徒会活動の活性化に取り組む。</p> |

| | | | | | |
|--------|----------------------------|---|--|--|---|
| | | <p>・ 課外クラブ活動への積極的な参加を呼びかける。</p> | <p>「部活動は活発に行われている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：85%</p> <p>「部活動は学習との両立について配慮がなされているとともに、生徒に十分な指導が行われている」(保護者アンケート) 目標肯定率：80%</p> | <p>肯定率 81% (28年度 85.7%) 課外クラブへの参加率は70%と例年並みである。</p> <p>肯定率 59% (28年度 68.3%) 部活動は活発には行われているが、学習と両立できるような配慮が足りないという結果となった。</p> | <p>課外活動と学習との両立ができるよう、全生徒完全下校の時刻を18:30とし、今後も徹底する。</p> |
| | <p>・ キャリア教育の充実と大学見学の実施</p> | <p>・ 中3での職業体験の内容を充実させる ・ 卒業生を招いてキャリア教育講演会を実施する。</p> | <p>「職業体験や卒業生による後援会を実施し、キャリア教育の充実に努めている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：85%</p> | <p>肯定率 81% (28年度 83.9%)</p> | <p>キャリア教育を学校としてデザインする仕組みと部署が必要である。</p> |
| 組織力の強化 | 組織力の強化 | <p>・ 各教科から予備校主催の教員セミナーに参加する。</p> | <p>「生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある」(自己評価アンケート) 目標肯定率：80%</p> | <p>肯定率 72% (28年度 72.2%) 各教科から2名ずつの参加ができたが、情報の共有が完全にできなかったわけではない。</p> | <p>大学進路指導に向けて、情報の共有を行い、生徒の実態に合わせた指導法を確立しなければならない。</p> |

| | | | | | |
|----------|----------|---|--|--|--|
| | | | 「学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：75% | 肯定率 67% (28年度 79.6%) 肯定率が10%以上低下した。 | ICT 機器を用いた授業をさらに促進させる。 |
| 財務基盤力の強化 | 入学者の確保 | ・地域別のミニ説明会などの広報活動を実施する。 ・インターネット出願システムを導入する。 | 「入学者を確保するための十分な募集広報活動を組織的にしている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：95% | 肯定率 91% (28年度 96.4%) 数値は低下したが、90%を維持している。 | 今後も引き続き高い数値を維持できるよう、入試対策部とアドミッションセンターを中心に広報活動を行っていく。 |
| | キャンパスの整備 | ・教員へのタブレット端末導入及び活用のための研修 ・トイレの洋式化を行う | 「ICT を利用して授業を行っている」(自己評価アンケート) 目標肯定率：60% 「施設・設備は安全かつ衛生的に管理・整備がなされている」(保護者アンケート) 目標肯定率：90% | 肯定率 65% (28年度 22.2%) 肯定率 76.5% (28年度 81.7%) | 希望教員にタブレットを配布し、約 %の教員に配布済み。 生徒用トイレは、100%洋式化を達成した。 |

※ 自己評価アンケート、保護者による学校評価アンケートは 1：達成できている 2：ほぼ達成できている 3：あまり達成できていない 4：まったく達成できていないの4段階に分けて回答。肯定率とは、全ての回答における1と2の回答の割合のこと。

肯定率〔%〕＝(1と2の回答数／全回答数)×100で計算した。